

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371301090		
法人名	株式会社ライフケアみおつくし		
事業所名	グループホームみおつくし のぞみ		
所在地	名古屋市守山区竜泉寺二丁目1139番地		
自己評価作成日	平成30年12月20日	評価結果市町村受理日	平成31年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371300720-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成31年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは小幡緑地公園の一角に位置し、自然が豊かで静かな過ごしやすい環境にあり、四季折々の風景を身近に感じることができるのが特徴です。天気の良い日には午前、午後に庭に出てお茶会や利用者様と収穫した野菜類を使い食事会や夏には流しソーメン等毎年の恒例行事になっています。柿やミカン、ゆず等の自然の恵みもいただいています。また愛犬の散歩で立ち寄られた方がその後運営推進員をお受けいただき、貴重なご意見やイベントに参加して頂いています。また毎年開催されている福祉祭りや作品展への出展を利用者様は喜んでいらっしゃいます。高台の一軒家という立地であることから、利用者様も自由に出入りをされ、草むしりや掃除、花壇の手入れ等をして下さっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの創成期の段階(初年度)に開設して以来、地域の方との交流が行われており、地域の方と共に歩んできたホームでもある。運営法人全体で、区役所や地域包括支援センターとも協力関係をつながりながら、区内のグループホームの方との交流の取り組みが行われている。当ホームも関連事業所と同様に少人数の職員で勤務体制をつくっており、職員が一つのチームとして利用者への支援が行われている。日常的に職員間で意見交換を行い、理念に掲げている「やすらぎ」のある生活の実現につなげている。毎月の職員会議の際には、法人代表者をはじめ、複数の役員が出席しており、職員からの意見等をホームの運営に反映させる取り組みが行われている。また、法人の関連事業所とも連携しながら、利用者の一泊旅行の取り組みを継続しており、利用者の楽しみにもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である<やすらぎ>をホールに掲げ、各職員が意識して仕事にあたるようにしている。毎月のカンファレンスの前に全員で理念を読み上げ、意識付けを行っている。また、普通の生活とは何かを常に考えるように職員に伝えている。	利用者にとって「やすらぎ」のある生活を継続することを目指した基本理念を掲げており、毎月実施しているカンファレンスの際には、職員間で理念の唱和が行われている。また、事務室内に掲示を行い、日常的な意識向上も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、数年ごとに組長を担当したり、町内の掃除に参加をしている。愛犬の散歩で立ち寄られた方には運営推進委員を受けて頂いている。今後も地域との出会いを大切に、挨拶や会話を進め、ホームへの訪問を働きかけます。	ホームは地域の自治会に入り、地域で行われている清掃活動等に参加する等、地域の方との交流が行われている。避難訓練を通じた炊き出しに地域の方にも来てもらう交流が行われている。また、地域のサロンに参加する機会もついている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の専門性を生かし、町内会を通じ、地域に根差した介護について気軽に相談できる場所としての位置づけをして頂けるように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ2ヶ月ごとの開催をしており、ご家族代表、町内会長、民生委員、主治医、いきいき支援センター職員(年数回)にご協力をいただき、ホームの活動報告、地域への貢献等へのご意見、ご指導を頂いている。	会議の際には、複数の地域の方や家族の参加が得られており、地域の関する情報交換やホームの運営に関する意見交換等が行われている。また、会議に運営法人の幹部職員も出席したり、今年度より運営法人の関連事業所との合同の会議も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や区役所との連携で、指導やアドバイスを受けるなどお世話になっている。また守山区社会福祉協議会主催の福祉祭りには毎年参加している。他にもイベント等がある時にはできるだけ職員とともに参加をするように心掛けている。	ホームでは生活保護の方の受け入れが行われており、市担当部署との情報交換や必要な連携が行われている。また、区役所や地域包括支援センターとは、運営法人全体で交流が行われており、区の行事への参加や区内のグループホームの方との連携が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員一同は「身体拘束をしない介護」について毎月のカンファレンス時の他に事あるごとに確認しあい、全利用者様が安全で穏やかな生活をして頂けるように考え、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内に施設等の対応を行わないように、職員間で連携した見守りが行われている。また、身体拘束に関する毎月の検討会議の実施や運営法人を通じた職員研修が行われており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的だけでなく精神的な虐待防止について毎月のカンファレンスの勉強会で研修や確認を行っている。また普段より利用者様の着替え時や入浴時に身体に変化がないかを確認にし、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	在籍されている利用者様の後見人様にご協力いただき、指導を仰いだりして学ばせて頂いている。それらを活用できる管理者、職員に慣れるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り細かな説明を行い、疑問点にはきちんと答え、ご理解、ご納得をして頂けるように努めている。なお、必要な時には書面で連絡を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所便りを年5回程ご家族へ送り、近況をお知らせしたり、ご家族が来訪された際に近況をお伝えし、ご家族の意向を聴き運営に反映するように管理者、職員ともに努めている。	ホームで行われている行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会につなげている。家族からの要望等には、内容にも合わせてホーム管理者や運営法人の幹部職員による対応も行われている。また、年4回のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の幹部会議、主任会議、カンファレンス等を通じて職員の意見等を聞き、可能な事は取り入れ、介護を行いやすい環境作りに努め、反映させるようにしている。	少人数の職員体制で支援を行っていることで、日常的に意見交換を行いながら、職員からの意見等を随時ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、会議の際には運営法人の幹部職員も出席しており、定期的な意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働環境の改善には出来る事から取り組んでいる。賃金面の諸手当の充実や社内スキルアップ研修の修了者には手当てがあるなど、各職員が向上心を持ってスキルアップできるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護技術向上のため、教育係による実習、社内ライセンス取得を目指した研修を行っている。併せて市主催の研修や、講演会等にも参加を促し、参加をする職員も増えてきた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市や守山区の各連絡協議会等に参加をしており、情報収集や研修会等に参加し、交流できる機会を作り、サービスの質の向上が図れるように努めている。また有志による守山区グループホーム連絡会を企画し、管理者や協力者による勉強会等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所が決まった時点からではなく、面接時からご本人の思いを傾聴し、早くから信頼関係を構築するように努め、安心して共同生活に入っていたできるように関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時だけでなく、ご家族の来訪時や電話等で不安やお困りの事を聞き取り、介護に対する思いをご家族と共有できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当初はもちろんの事、入居後に状況変化があるごとに、ご家族やご本人と話し合い、必要な援助を行うようにしている。また職員間でも検討し共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護を行うだけの関係ではなく、自分も共同生活の一員としての立場に立ち、利用者様に寄り添った介護ができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日常的に家族と連絡を密にして、利用者様により良いサービスを提供できるように努めている。また各イベントにご家族も参加して頂けるように呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の要望に応じて年賀状、日ごろのお便りを出して頂けるような援助を行っている。また以前住まれていた場所へ出かけたり、ご家族と外泊されたりできるような支援を行っている。	利用者の馴染みの方との関係継続は徐々に困難になっているが、友人、知人との交流がけいぞくできるように、年賀状等を通じた交流が行われている。家族との外出の機会がつけられており、食事や買い物をはじめ、自宅で家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話やレク等を行うことにより各利用者様同士の関係構築に努めている。また合同レクを行うことにより2つのフロアの利用者様同士の関係もできており、利用者様が孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族には入所先が決まるまで気軽に相談や訪問をして頂くように伝えたり、心当たりのある施設の紹介援助を行い、いつでも相談に応じる旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で個々の希望や意向を把握し、コミュニケーションが困難な利用者様においては、ご家族からの聞き取りやご本人の様子、アセスメントの活用等で把握に努めている。	日常的に職員間で利用者に関する情報交換を行いながら、職員による利用者に関する意向等の情報を共有する取り組みが行われている。また、毎月のカンファレンスを実施しており、利用者の意向等に関する検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者はアセスメントを職員が自由に閲覧できるようにしている。また、職員も普段の会話を通し、生活歴等をお聞きし、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りをはじめ、カンファレンスなどで職員間の情報共有を密にするようにして、利用者様の思いやご家族の思いを聞き、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に使う様式を主任会議等で作成し、よりスタッフの意見が多く取り入れられるようにしている。カンファレンスでサービス計画の見直し、作成を行い、又、御本人の思いを中心に家族の意見等聞き、本人の現状にあった計画作成に努めている。	介護計画を6か月で見直しを行っており、変化に合わせた見直しに取り組んでいる。また、日常的にも記録用紙に介護計画の内容に関するチェック記録を残しており、利用者の変化の把握と毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭の申し送りやノート、介護記録等で情報共有をし、常に状態把握に努めている。そして変化の有った時には介護計画の見直しを適時行うことで利用者様が安心して生活して頂けるように考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員には臨機応変の対応が重要な事を説明し、理解をもらえるように努めている。職員も柔軟な対応ができるように努力してくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や民生委員様との関係強化に努めることで良好な関係が築けている。本社地区と新守山で認知症カフェがはじまったので、一層地域と利用者様との交流が図れるように支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームでは入所時に主治医を当ホーム契約の医師に代わって頂くようお願いしています。月2度の往診、緊急時の往診、救急対応等もしている。	協力医とは、定期的な訪問診療の他にも、利用者の健康状態等に合わせた随時の対応が行われており、医療面での柔軟な支援が行われている。また、週1回の訪問看護による医療面での支援が行われおり、協力医との連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	会社で雇用している看護師との連携と併せて、訪問看護ステーションと契約しており、訪問看護、緊急時のサポートを密にし、看護指導等を受け、利用者様が適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	複数の協力医療機関を持ち、安心して受け入れていただけるよう契約を取り交わしている。また入院時にこまめに足を運ぶことにより、病院関係者から情報もいただき、施設での生活が出来る状態になったら早期に退院して認知症の進行を最小限にする努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の為に入所時に家族・後見人の意見をいただいている。又、ホームで出来る事・出来ない事を十分に説明し理解していただいている。状態に変化が見られた時は、その都度家族に連絡し、医療機関との連携の下、援助に取り組んでいる。	ホームには身体状態が重い方も生活を継続しており、ホームでの看取りを見据えた支援が行われている。医療面での連携を深めながら、職員間で随時の対応が行われている。また、運営法人を通じたターミナルケアに関する職員研修も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変又は災害時を想定し救急救命訓練や応急手事故発生への対応訓練等を消防機関へ依頼することを定期的に計画し実践力を身に付けれるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震に備えるために自主防火防災計画書を作成し、町内会組織にも組み込んでいただいている。また職員全員を対象に施設独自で炊き出し、防火防災訓練を行っている。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。地域の方も炊き出し等を通じた協力関係の取り組みが行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	地域の方との関わりが長くなるにつれ、地域の方の高齢化が進んでいることで、ホームに来ることが困難になっている状況もある。災害対策に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンス前に全員で理念を読み上げ意識付けを行っている。また理念の内容について話し合ったりして、人格尊重や言葉かけの際の注意事項等も話し合い、共有している。	基本理念には、利用者を尊重した対応を行うことを目指した内容も記載されており、職員間で定期的に唱和することで、職員の日常的な意識向上につなげている。また、運営法人を通じた職員研修を実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いや希望を出して頂ける雰囲気づくりに努め、声掛けをする中でもアンテナを広げ、自己決定支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様がどのように生活したいかを介護の中心に置き、介護者側の都合を優先させないようにして利用者様のペースで生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の要望に沿った身だしなみやおしゃれができるように支援している。例えば、利用者様と一緒に服や化粧品を買いに行き、選んでいただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでいただける雰囲気づくりとして、献立への要望をお聞きしたり、職員と一緒に食事作り、後片付け、また食事をする場所等も考慮し、食事を楽しんで頂けるように努めている。	メニューその日にユニット毎に考えており、利用者の希望等の確認も行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加したり、身体状態に合わせた食事形態の提供が行われている。また、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分摂取量に気を付けた支援を一日の流れの中で職員の習慣として組み込み、その都度気配りをしてお一人お一人への支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各利用者様の状態・自立度に合わせたケアをしたり又は援助している。状態に応じて契約訪問歯科医療機関に出張診療、口腔ケア指導をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立への向上心を大切に、利用者様の排泄パターンを職員間で共有し、なるべくトイレでの排泄ができるように援助している。自立に向けての援助方針により、全介助の方でもできるだけ残存能力を生かした援助に努めている。	利用者全員の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報を共有しながら、利用者に合わせて支援につなげている。また、運営法人で独自の「オムツライセンス」の取り組みを行っており、利用者の排泄支援につなげる取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫や、ラジオ体操や散歩等出来るだけ体を動かしていただけるよう働きかけ下剤に頼らない便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴時に潜む危険を回避するため、職員配置の充実した時間帯を入浴時間としているが、自立度の高い利用者様やご希望のある利用者様については、適時入浴を支援している。	毎日の入浴が行われており、利用者は1日おきに入浴しているが、入浴の回数や時間にも対応している。身体状態に合わせた職員複数での介助も行いながら、浴槽での入浴をしてもらい取り組みが行われている。また、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は散歩や日光浴等外気に触れて頂くように支援している。併せて多くの楽しみごとを増やし、安眠して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬のリストを利用者様ごとにファイルし、服薬の目的や副作用を職員が把握しやすいようにしている。併せて会社内の看護師による健康管理を行い、症状の変化に応じて主治医と連携を取り、健康維持に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の自立度に合わせた役割を持っていただき、又、各々の趣味や楽しみを把握し張り合いのある日常生活が送れるよう援助している。また年1回の全施設合同での温泉一泊旅行も行っており、利用者様の楽しみにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材や日用品の買い物には同行して頂いている。法人他施設との交流も頻繁でドライブや外食等も合同で行っている。また地域行事へも参加して頂いたり、散歩等を意識的に取り組み、外出支援を行っている。	ホームでは、毎日の散歩等の取り組みが行われており、日常的に利用者の外出の機会をつくっている。季節に合わせた花見や公園等の外出行事が行われている。また、運営法人全体で一泊旅行の取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは基本的には金銭の個人所持は控えていただいている。少額の所持でご本人の安心につながると云う事であればご家族様と相談の上所持していただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から依頼があったり、ご家族やご友人から電話があった時には対応して頂いている。また、手紙やはがきのやり取りをされる方もいるので、支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには利用者様が描いたり作成した作品や外出時等の写真を飾ったり、あまり華美にならずに落ち着いた雰囲気で過ごして頂けるような配慮をしている。	当ホームは、ユニットにより雰囲気が異なっているが、アットホームな雰囲気であることは共通している。庭にはサボテンが植えられてあり、利用者の手入れが行われている。また、リビングの壁面には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは気の合った利用者様同士で会話をしたり、好きな事をして過ごして頂いている。また好きな場所で過ごして頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具小物を持ち込む事で安心し落ち着いた生活が出来ることをご家族にも伝え、入所時に持ち込んでいただくことにより、混乱を減らし、居心地良い空間作りに努めている。	居室には、利用者や家族の意向等に合わせた居室づくりが行われてあり、入居前からの馴染みの物の持ち込みや身内の方の仏壇等の持ち込みも行われている。また、家族の写真や自身の作品を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室の表札や、トイレの場所の案内を掲げ、なるべくわかりやすいようにしている。利用者様がご自分で出来る事は極力して頂き、生きがいにつながるような援助を行っている。		